

平成22年度 防災とボランティアのつどい

みんなで支えあう新たな「共助社会」にむけて
～ボランティアがつなぐ
『希望・KIZUNA・おたがいさま』～

内閣府(防災担当)
平成23年1月23日(日)

座談会

みんなで支えあう
新たな「共助社会」に向けて
～ボランティアがつなぐ
『希望・KIZUNA・おたがいさま』～

14:00～16:30

登壇者紹介



栗田 暢之

(特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表)



村井 雅清

(被災地NGO協働センター 代表)



山崎美貴子

(神奈川県立保健福祉大学学長／東京ボランティア・市民活動センター所長)



コーディネーター:

中川和之

(時事通信社防災リスクマネジメントWeb 編集長)



コメンテーター:

菅 磨志保

(関西大学社会安全学部 准教授)

出演者が関わった成果

- ・『『仮設』声の写真集 阪神大震災もう一つの記録』、阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会編、1998
- ・「阪神大震災 市民がつくる復興計画 私たちにできること」、市民とNGOの「防災」国際フォーラム実行委員会編、1998
- ・「市民社会をつくる 震後KOBE発アクションプラン」、震災復興市民検証研究会編著、2001
- ・「阪神・淡路大震災10年市民社会への発信」、震災10年市民検証研究所、2005
- ・「シリーズ災害と社会 災害ボランティア論入門」、菅磨志保・山下祐介、渥美公秀編著、2008
- ・『『広がれボランティアの輪』連絡会議提言集～提言にみるボランティア・市民活動の潮流と課題～、「広がれボランティアの輪」連絡会議、2009
- ・「災害ボランティア文化～阪神・淡路大震災15年と震つな～」、震災がつなぐ全国ネットワーク、2010
- ・「KOBEの検証シリーズ ①～④、別冊版」、震災がつなぐ全国ネットワーク、1998～2008

はじめに 14:00～14:15

・プログラムの紹介

パート① 14:15～14:35

・ボランティアとは
・阪神・淡路大震災の経験から

パート② 14:35～14:55

・様々な災害を経て、高まった市民活動

休憩 14:55～15:10

・ご質問、ご意見の回収

パート③ 15:10～16:30

・今後の展開への期待

パート①

まず、はじめに ボランティアとは？

共助社会 Ⅱ 希望・KIZUNA・おたがいさま



写真提供:被災地NGO協働センター

阪神・淡路大震災とは

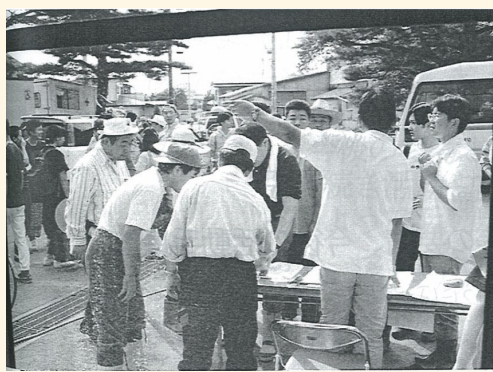
- 138万人のボランティア
- 専門技術をもたないボランティアも多数、行政とコミュニティの限界が露呈
- ボランティア活動への制度的支援の構築について議論、非営利団体の設立に向けた議論が加速
- 災害対策基本法を改正 → 「ボランティア」という言葉が、わが国の法律に明記されたのはこれが初めて
- 防災基本計画を改定 → 国及び地方公共団体が「ボランティアによる防災活動の環境の整備に関する事項」の実施に努めなければならないこと(同法第8条)を法律上明確に規定
- 閣議了解で、「防災とボランティアの日」(毎年1月17日)及び「防災ボランティア週間」(毎年1月15日～21日)を創設

阪神・淡路大震災での 経験、その後

パート②

1997年ナホトカ号重油流出災害

1998年北関東・南東北豪雨災害(那須水害)



2000年有珠山噴火災害

2000年東京都三宅島噴火災害

H22年度 防災とボランティアのつどい

2000年秋雨前線豪雨災害(東海豪雨)



2000年鳥取県西部地震



17 写真提供：日野町、日野ボランティアネットワーク

H22年度 防災とボランティアのつどい

2004年新潟・福井豪雨台風15・16・21・23号等



福井県福井市ほか



2004年新潟県中越地震



写真提供:とちぎボランティアネットワーク

2004年までを 振り返る

2005年台風第14号



美川町
写真提供: 美川災害ボランティアセンター

2006年梅雨前線による豪雨

2007年能登半島地震

2007年新潟県中越沖地震

2008年岩手・宮城内陸地震



23 写真提供:とちぎボランティアネットワーク

H22年度 防災とボランティアのつどい

2009年中国・九州北部豪雨、台風第9号



写真提供:弘中秀治氏

24 山口県防府市

H22年度 防災とボランティアのつどい

2010年梅雨前線による大雨、台風第9号、 鹿児島県奄美地方における大雨



山陽小野田市、写真提供：弘中秀治氏

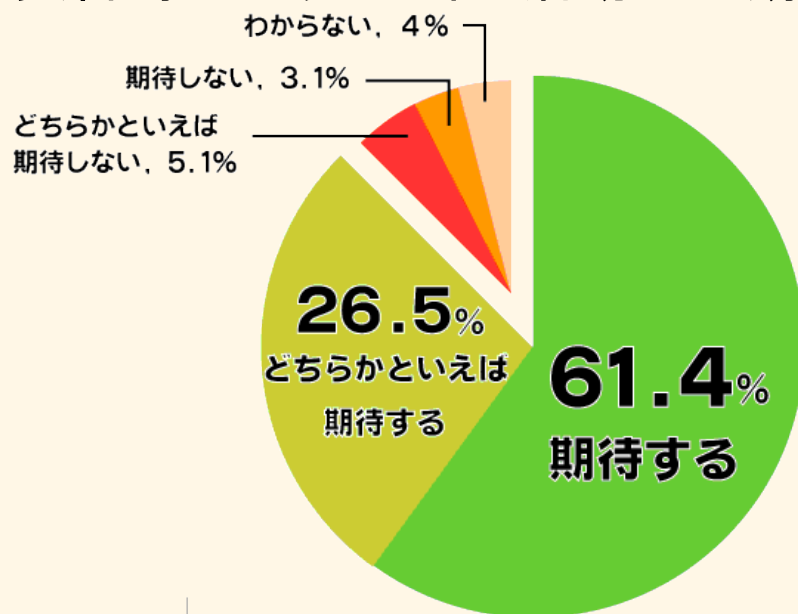
2005年～現在 までを振り返る

休憩

ご意見 & ご質問は お近くのスタッフまで

パート③

災害時のボランティア活動への期待



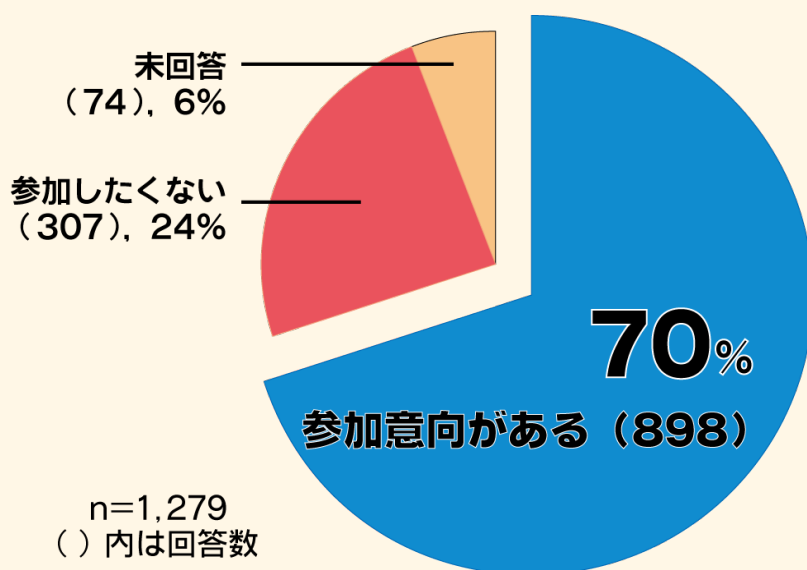
期待する + どちらかといえば期待する

※平成22年版防災白書より

内閣府調査(平成22年2・3月実施)

= 87.9%

災害時のボランティア活動への参加意向



※内閣府調査(平成22年8月実施)

新しいテーマ

- 「新しい公共」の再認識

行政のみならず、国民、企業など様々な主体の連携・協働による防災活動や地域防災力の向上

- 地域の「受援力」を高める

ボランティアを地域で受入れる環境・知恵など
ボランティアの「支援力」と被災地の「受援力」

- 大規模災害時の広域連携体制の構築

大規模地震災害の際に、円滑な防災ボランティア活動が行われるよう事前の備えが必要

今後の展開への期待 ～会場とのやりとり～

出演者自らがこれから
やっていくこと、
参加者に期待すること

まとめ

座談会終了